



## 2024年12月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2024年5月10日

上場会社名 ラオックスホールディングス株式会社  
コード番号 8202 URL <https://www.laox.co.jp>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長COO (氏名) 矢野 輝治  
問合せ先責任者 (役職名) グループ財務経理室長 (氏名) 池内 大介  
四半期報告書提出予定日 2024年5月10日  
配当支払開始予定日  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東  
TEL 03-5405-8859

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年12月期第1四半期の連結業績(2024年1月1日～2024年3月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年12月期第1四半期	12,770	30.3	902		798		799	
2023年12月期第1四半期	9,799	18.5	787		763		660	

(注) 包括利益 2024年12月期第1四半期 781百万円 ( %) 2023年12月期第1四半期 645百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年12月期第1四半期	8.75	
2023年12月期第1四半期	7.23	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年12月期第1四半期	40,599	21,624	53.2
2023年12月期	46,262	22,406	48.4

(参考) 自己資本 2024年12月期第1四半期 21,614百万円 2023年12月期 22,396百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年12月期				0.00	0.00
2024年12月期					
2024年12月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2024年12月期の連結業績予想(2024年1月1日～2024年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	68,000	13.0	1,200	321.2	950	71.0	700	65.7	7.66

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年12月期1Q	93,335,103 株	2023年12月期	93,335,103 株
期末自己株式数	2024年12月期1Q	1,918,474 株	2023年12月期	1,918,464 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年12月期1Q	91,416,632 株	2023年12月期1Q	91,416,714 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断している一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、経済活動の正常化が進み、インバウンド需要の増加や所得環境の改善、個人消費の増勢が見られるなど、緩やかな回復基調となりました。一方で、人材確保の必要性が強く意識されたことと賃上げの圧力が高まり、世界的な金融引き締めに伴う海外の景気下振れ、円安基調による資源・原材料価格高騰に伴う物価上昇、中国人旅行客の回復遅れ、地政学リスクの高まり等により、依然として先行き不透明な状況が続きました。

このような状況の中、当社グループにおいては、ミッションである「豊かで多様なライフスタイル“Global Life Style”の提案とその進化・創造の支援」の実現に向け、事業セグメントごとに適した成長戦略を展開しております。グループ企業のシャディでは、物販にとどまらず、顧客に有益な生活情報を配信し、顧客とダイレクトな接点を確立し、さらに、若年層の消費者を獲得するために、新コンテンツ「つながるアプリ」を2月より公開、リテール事業においても、ハイエンドな商品の販売力強化、ブランドの再構築などの取り組みを行い、新商品カテゴリでの収益拡大を積極的に図っております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の連結業績は、昨年5月に株式会社バーニーズジャパンを子会社化した影響もあり、売上高12,770百万円（前年同期比30.3%増）、営業損失902百万円（前年同期は787百万円の損失）となりました。また、円安の影響により為替差益129百万円を計上し、経常損失798百万円（前年同期は763百万円の損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失は799百万円（前年同期は660百万円の損失）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。なお、前第2四半期連結会計期間より、報告セグメントとして記載する事業セグメントを変更しており、当第1四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づいております。

#### (ギフトソリューション事業)

当事業セグメントにおきましては、主に贈物としての洋菓子や雑貨、生活関連用品の販売を行っております。今期は、従来の返礼ギフトに加え、カジュアルギフトマーケットに積極的に参入しております。

昨年よりポップアップショップの展開が好調に推移している洋菓子PB「THE SWEETS」は、JR新大阪駅でのレポート出店、サービスエリアでの常設展開や、コラボレーションを積極的に展開し新規ファン層の拡大に貢献しております。加えて、新コンテンツ「つながるアプリ」を2月より公開し、オムニチャネル化の推進と新規顧客の獲得を目指しております。

また、オンライン販売は堅調に推移し、法人事業にて新たな地方自治体関連事業の獲得などによる売上の増加がありました。ギフト市場における消費者行動の変化への対応が遅れており、減収となっております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、6,841百万円（前年同期比9.0%減）となり、セグメント損失は329百万円（前年同期は293百万円の損失）となりました。

#### (リテール事業)

当事業セグメントにおきましては、国内の顧客だけでなく訪日外国人旅行客数が過去最高に達したこと、マーチャンダイジング戦略の見直しにより、ハイクオリティな商品の販売が好調に推移しました。さらなる売上増を見込み店舗網拡大に向けた準備を開始致しました。株式会社バーニーズジャパンにおいては、海外、特に中国へブランド露出の強化に注力するだけでなく、アート、ジュエリー、ウォッチなど新たなカテゴリを導入し、さらには、様々なコラボ商品のポップアップ展開を推進しております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、株式会社バーニーズジャパンの訪日外国人旅行客の売上構成比の増加の影響もあり、5,323百万円（前年同期比547.2%増）となり、セグメント損失は223百万円（前年同期は72百万円の損失）となりました。

#### (トレーディング事業)

当事業セグメントにおきましては、昨年からの中国市場の変化へ対応するべく不採算事業の再編に取り組んでおります。一方で、中国国内の子会社が運営している日本料理店「くろぎ」は、日本の農林水産省から「日本食親善大使」に任命され、日本食や食文化の魅力を発信することを通じて、日本の農林水産物や食品の更なる魅力を伝えながら、

新規顧客の獲得に向けて取り組んでまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、289百万円（前年同期比71.6%減）となり、昨年からの構造改革の効果により、セグメント利益は6百万円（前年同期は61百万円の損失）となりました。

（アセット・サービス事業）

当事業セグメントにおきましては、商業施設物件の仲介業を行っており、管理している商業施設およびグループ不動産の有効活用に向けて、テナントの入れ替えや新たな業態の誘致、キャッシュ・フロー改善、コスト圧縮による利益改善に取り組んでまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、315百万円（前年同期比27.5%減）となり、セグメント損失は52百万円（前年同期は110百万円の損失）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、40,599百万円（前連結会計年度末46,262百万円）となりました。これは主に、現金及び預金が731百万円、受取手形及び売掛金が4,732百万円減少したことによるものであります。

（負債）

負債合計は、18,974百万円（前連結会計年度末23,855百万円）となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が3,506百万円、電子記録債務が454百万円、流動負債その他が822百万円減少したことによるものであります。

（純資産）

純資産合計は、21,624百万円（前連結会計年度末22,406百万円）となりました。純資産の減少は、主に、利益剰余金が799百万円減少したことによるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想（2024年2月9日公表）についての修正はありません。なお、業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の情報は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	11,156	10,425
受取手形及び売掛金	13,516	8,784
棚卸資産	6,737	6,788
その他	3,957	3,802
貸倒引当金	△318	△311
流動資産合計	35,050	29,487
固定資産		
有形固定資産	5,375	5,321
無形固定資産	1,072	1,032
投資その他の資産		
その他	8,269	8,099
貸倒引当金	△3,504	△3,341
投資その他の資産合計	4,764	4,757
固定資産合計	11,212	11,112
資産合計	46,262	40,599

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,363	4,856
電子記録債務	2,004	1,549
短期借入金	2,550	2,550
未払法人税等	51	14
引当金	276	301
契約損失引当金	232	223
その他	5,834	5,012
流動負債合計	19,313	14,508
固定負債		
長期借入金	192	184
引当金	150	133
契約損失引当金	809	756
退職給付に係る負債	976	965
資産除去債務	857	858
その他	1,554	1,569
固定負債合計	4,542	4,466
負債合計	23,855	18,974
純資産の部		
株主資本		
資本金	100	100
資本剰余金	17,652	17,652
利益剰余金	6,407	5,608
自己株式	△2,419	△2,419
株主資本合計	21,740	20,941
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	651	668
退職給付に係る調整累計額	4	4
その他の包括利益累計額合計	655	672
新株予約権	10	10
純資産合計	22,406	21,624
負債純資産合計	46,262	40,599

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)
売上高	9,799	12,770
売上原価	7,400	8,661
売上総利益	2,399	4,109
販売費及び一般管理費	3,187	5,012
営業損失(△)	△787	△902
営業外収益		
受取利息	5	6
為替差益	53	129
その他	9	7
営業外収益合計	68	143
営業外費用		
支払利息	2	2
持分法による投資損失	8	11
地代家賃	26	—
支払手数料	—	15
その他	7	9
営業外費用合計	43	38
経常損失(△)	△763	△798
特別利益		
固定資産売却益	4	0
契約損失引当金戻入額	122	—
その他	24	—
特別利益合計	151	0
特別損失		
固定資産除却損	—	1
契約損失	59	—
その他	13	—
特別損失合計	73	1
税金等調整前四半期純損失(△)	△685	△799
法人税等	△24	0
四半期純損失(△)	△660	△799
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△660	△799



## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)
四半期純損失(△)	△660	△799
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	0	—
為替換算調整勘定	14	17
退職給付に係る調整額	△0	△0
その他の包括利益合計	14	17
四半期包括利益	△645	△781
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△645	△781

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第1四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ギフトソリ ューション 事業	リテール 事業	トレーディ ング事業	アセット・ サービス 事業			
売上高							
外部顧客への売上高	7,521	822	1,020	434	9,799	—	9,799
セグメント間の 内部売上高又は振替高	33	—	7	16	57	△57	—
計	7,554	822	1,028	451	9,857	△57	9,799
セグメント利益又は損失 (△)	△293	△72	△61	△110	△537	△250	△787

(注) 1 セグメント利益の調整額△250百万円には、セグメント間取引消去40百万円、各報告セグメントに分配していない全社費用△290百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない人件費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ギフトソリ ューション 事業	リテール 事業	トレーディ ング事業	アセット・ サービス 事業			
売上高							
外部顧客への売上高	6,841	5,323	289	315	12,770	—	12,770
セグメント間の 内部売上高又は振替高	46	9	8	84	149	△149	—
計	6,888	5,333	298	400	12,920	△149	12,770
セグメント利益又は損失 (△)	△329	△223	6	△52	△599	△303	△902

(注) 1 セグメント利益の調整額△303百万円には、セグメント間取引消去4百万円、各報告セグメントに分配していない全社費用△308百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない人件費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は、2023年5月1日付で株式会社バーニーズジャパンの全株式を取得し子会社化したことに伴い、当社グループにおける適切な経営情報の開示区分及び社内における業績管理区分や名称等を新たに見直した結果、報告セグメントを4区分(「ギフトソリューション事業」、「リテール事業」、「トレーディング事業」、「アセット・サービス事業」)へ変更することといたしました。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の区分方法に基づき作成したものを開示しております。